

令和7年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)
Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)
げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている B：わりとできている
C：一部改善が必要 D：改善しなければならない

	内容	前年評価	今年評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	B	理念、クレド、保育目標、子どもの主体性が育つ4つの柱についての理解はできているため、今後はより深く理解し全職員が同じ意識レベルになるように周知、浸透していく。 子どもへの声かけにおいて丁寧さに欠ける時がある。いつでもどんな時でも丁寧な言葉づかいと分かりやすい表現で子どもと関わっていく。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にされた保育をしている	B	B	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	A	B	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	A	A	・子どもの興味や関心、一人ひとりの成長を理解しながら日々保育と向かい合っていた。今年度良かった点は、まずはやってみようという意識が持てたこと。視察研修等で学んだことや刺激を受けたことを職員間で共有し、すぐに行動へ移し保育や保育環境の見直しを行うことができた。 ・アトリエについて、年度前半は素材教材が充実しワクワクする空間だったが、年度後半は行事やクラスから離れた場所に設置していることもあり、十分にアトリエを活用することができなかった。子どもたちの創造性や表現が自然にあふれるアトリエを目指していきたい。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	A	A	
	(3)素材・用具を適切に使用している	B	B	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	B	B	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	A	A	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	A	A	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	A	A	・クッキングや栽培活動を通して食の大切さや楽しさを学び感じる事ができている。未満児クラスも積極的に食育に取り組んでいる。 ・アレルギーや離乳食については、保護者、保育教諭、栄養士が一体となって子ども一人一人に関り対応している。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	A	A	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	A	
役員研修構成	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	B	A	・園長、主幹保育教諭、以上児リーダー、未満児リーダー、クラスリーダーと役割役割を明確にし責任をもって保育業務に携わっている。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	A	A	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	A	B	

		前年評価	今年評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	A	A	<p>・子どもの日々の様子は迎え時に保護者と共有している。</p> <p>・保護者の要望に応じて(成長や発達について)面談を行った。</p> <p>・保育内容や準備物など分かりやすく伝える努力をしている。</p>
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	A	A	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	A	A	
	(4)園だより、ドキュメンテーション、きっぷノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	B	B	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	A	A	

開かれた 保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	B	B	今年度は積極的に保健師さんや訪問支援を利用し気になる子どもへの対応、相談を行った。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	B	A	

子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	B	B	・子育てに関する相談はいつでも対応している。必要に応じ柔軟に面談を行っている。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	A	A	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	B	B	

総合的な現状と課題

<p>・子どもの主体性が育つ4つの柱にあるアートについて、今年度は、アトリエの活用が十分とは言えない状況が見られた。主な要因として、アトリエが各クラスから離れた場所にあるため自由に使うことができなかったこと、また教材や素材の補充、管理体制が不十分であったことが挙げられる。今後は子どもたちがやってみたい、表現したいと思ったときにいつでもアトリエが使えるように場所や動線、素材の管理などを職員全員で関り、考えて再構築に努めていく。</p> <p>・自園で良かった点は、研修で学んだことを職員間で共有し即、実践に移したこと。以前はマイナス面、安全面が気になり行動へ移すことに時間がかかる、もしくは行動に移さないこともあったが、今年度はリーダーを中心に「まずはやってみよう」という意識が浸透し、保育、保育環境の再構築に努めることができた。やって気づくこと、やったからこそ気づいたことなど、新たな発見や多くの学びがあった。今後も、まず行動に移す姿勢を大切にしながら、実践と振り返りを積み重ね保育と保育環境の充実を図っていく。</p> <p>・量の拡大から質の高い保育の確保へと方向が転換される中、今後、自園の課題に対して一人ひとりが自分事として捉え、同じ意識レベルで課題解決に取り組んでいき、外部研修や法人内研修(新人研修、ワーキンググループ研修、アトリエ研修、協愛合宿)を通し職員一人ひとりが保育をアップデートしスキルアップしていくことで保育の質の向上に努めていきたいと思う。</p>

園名 ひがしこども園

氏名 川村 隆晶